

Title	田中萃一郎抄訳 民主主義批判
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.4 (1922. 4) ,p.579(147)- 580(148)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220401-0147

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

に、かの想像の強烈にして刹那の閃光の如くに
 心胸を射るものなきが故に、従つて無稽若しくは
 不自然なるものによりて判断を裏切り、又は
 は文體の著しき不齊若しくは順序の連絡なきが
 爲めに注意力を疲弊せしむるが如きこと嘗つて
 なく、而も快適にして興味あり、且つ相關聯
 せる對象を以て心を樂ましむる情操及び語法の
 均等にして練達せる雅致と連結せる正しき排
 列、正確なる適合と恰好とに逢着するなりと。

彼れは韻文より哲學に移り、佛國のアインク
 ロベチストは自國のデカルト (René Descartes)
 哲學の體系を棄て、英國のニーコン (Francis
 Bacon) 及びニートン (Issac Newton) の體系に
 移り、而して彼れ等は英國人自身よりも其の體
 系の有力なる説明者たることを示しつゝあるを
 觀たり。彼れは佛國「大百科全書 (Grande Ency-
 clopedie)」に就きて長文の評論を試みたる後、

地よく、勇ましく又た洵に正當なる頌讚の辭た
 ることを附言するに止む可し」と稱して擱筆せ
 り。

スミスは理論上に於ては常に共和主義者たり
 しの觀あり、而して彼れは慥かに一切の合理的
 自由を愛するに於て共和主義者の眞精神を有し
 たり。其の學生にして又た終生の友なるプハア
 ーン伯曰く「彼れは其の政治上の原則に於て共
 和主義に幾く、統治者の世襲的繼承は單に共和
 政治が功名心若しくは相争ひつゝある黨與によ
 りて輸致せられたる絶對支配權によりて動搖せ
 しめらるゝを防止するが爲めにのみ必要なるが
 故に共和政治を以て君主國の綱領として思料せ
 り」(The Bee, June 1791.)。

ビュフォーン伯 (Comte de Buffon) 及びノー
 ーミイウソ (René Antoine Ferchault de Réaumur)
 の科學上の近著を紹介し、而て形而上學の著作
 中に於ては僅かに是れよりも數ヶ月以前に現れ
 たるルソー (Jean Jacques Rousseau) の有名な
 「人間不平等の起源及び根柢論」(Discours sur
 l'origine et les fondemens de l'inégalité parmi
 les hommes, 1754) に論及し、ルソーは「些末
 なる哲學的化學並びに其の文體の助けによりて
 放縱なるマンドヴィル (Bernard de Mandeville)
 の原則及び觀念をしてプラトリーの倫理學の純正
 と率直の總べてを有し、而して稍や極端に馳せ
 たる唯一の共和主義者の眞精神たるの觀あらし
 めたり」と説けり。彼れは此の書の概梗を記し、
 其の二三の代表的章句を翻譯し、而して「單に
 余はルソー氏が其の一市民たるの光榮を有
 するジュネーヴ共和國に對する献本の詞が心

新刊紹介

田中萃一郎抄譯 「民主主義批判」

四六版一四〇頁

定價金壹圓五十錢

竹内書店發行

婦人に對する男子の所有權を承認する者は常
 に「不貞」を云々し、財貨に對する個人の所有權
 を承認する者は往々「盜賊」と叫び、創作に對す
 る所有權を尊重する者は又た屢々「剽竊」を呼
 ぶ。對象こそ異なれ、孰れも所有權に執着する
 者の聲である。世間には財産權の廢止、若しく
 は然らざるまでも其の嚴厲なる制限を主張する
 の論者にして思想上の私有權に執着し拘泥する
 ものが甚だ多い。

田中萃一郎博士は曾つて大阪毎日新聞紙上
 (大正九年四月)に「民主的産業制」と題して英人
 マロックが一千九百十八年に公にした「純粹民
 主々義限界論」の第二第三兩編を任意に抄譯し

て掲載し、偶々是れが爲めに室伏高信氏の爲めに「批評」誌上に於て「剽竊」なりとの非難を受けた。一切のものに對して所有權の支配する今の人の世は棲みにくい。而も博士に對する剽竊呼ばりが全然誤解であることは却つて博士に對して論敵の立場に在る吉野博士によつて同年七月雑誌「中央公論」に於て辯護せられてゐる。而して評者室伏氏は曾つて誤譯を指摘せられて其の譯本を絶版したるに對して、今ま田中博士は剽竊を云々せられて、却つて再度之れを梓に上す。其の間にも亦た一種の對照がある。

茲に掲ぐる所のものは即ち是れであつて、右の「民主的産業制」を中央に置き、其の前後に「民主政治の限界」及び「民主的社會制」を加へてゐる。前者は大正八年四月「大阪毎日」紙上に掲載せられ、後者は昨年二月を以て雑誌「國本」に公表せられたものである。博士が初めて本篇の筆を執つたのは當時世間に行はれて居つた一知半解の政治論を排斥するが爲めであつた。而して更に世論の悪化し行くに激して、博士がマ

ロック紹介の文は逐次其の「純粹民主主義限界論」の編を追ふて進んだのである。博士の筆は奔放不羈である。篇中にはマロック其人よりも田中博士自身の面目が躍る。

吾人は寧ろ博士雪冤の紀念として此の書を迎ふると共に、博士が他日更らに價値大なる權威に據り、若しくは深遠なる自家の研究に依り、這個辛辣なる筆を驅つて民主的産業制及び民主的社會制に對して更に深刻なる批評を加へられんことを希望してやまない。(高橋誠一郎)。

前號(第十六卷)目次(大正十一年三月號)

論 說

The Influence of So-called Marginal Rent upon the Marginal Expenses of Production. D. H. Buchanan

労働組合に關する諸問題(三、完) 堀江 歸一

英國の新鐵道政策(二) 増井 幸雄

リカルドオの價値論(二) 小泉 信三

近世資本主義起源考(二) 阿部 秀助

雜 錄

ウキリアム・モリスの労働論(一) 加田 哲二

健康保險運動の基調(一) 園 乾治

羊毛工業の發達と Merchant Adventurers(二) 高木 壽一

アダム・スミスの生涯(二) 高橋誠一郎

新刊紹介

福田徳三著「社會政策と階級闘争」 野村兼太郎

寺井久信著「船荷證券」 西本辰之助

●一冊定價金五拾錢
●半年分金貳圓九拾錢
●一年分金五圓四拾錢

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛

●營業に關する用件は發賣元宛

●原稿締切期日は發行の前月十日限

大正十一年四月一日印刷納本 每月一回一日發行

大正十一年四月一日發行

三田會社編輯 東京市芝區三田三丁目二番地慶應義塾内
發行所 江田 純 保
東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷者 金子 鐵 五郎
東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷所 金子 活版所

發賣元 國文堂書店
東京市芝區三田三丁目壹番地
電話高輪一三七番
振替東京四六九四九番

●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會